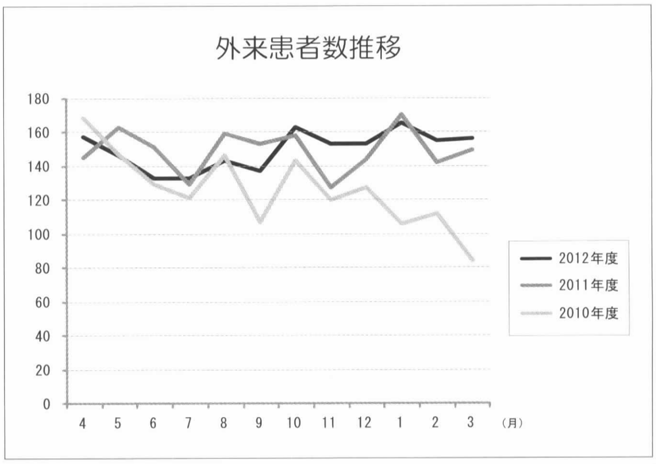
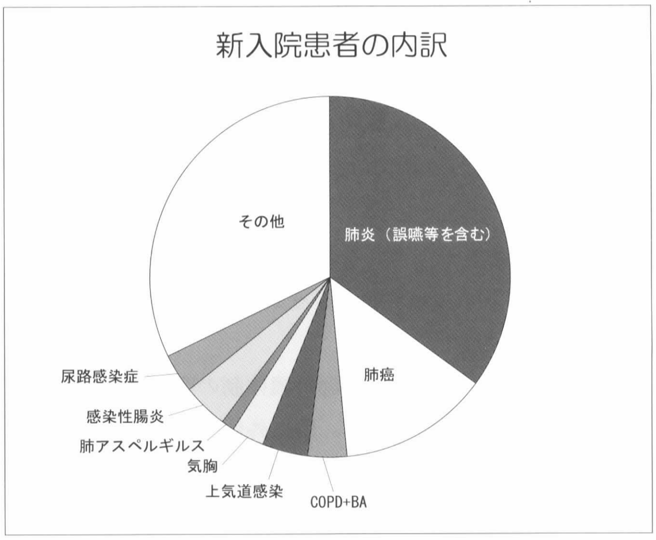
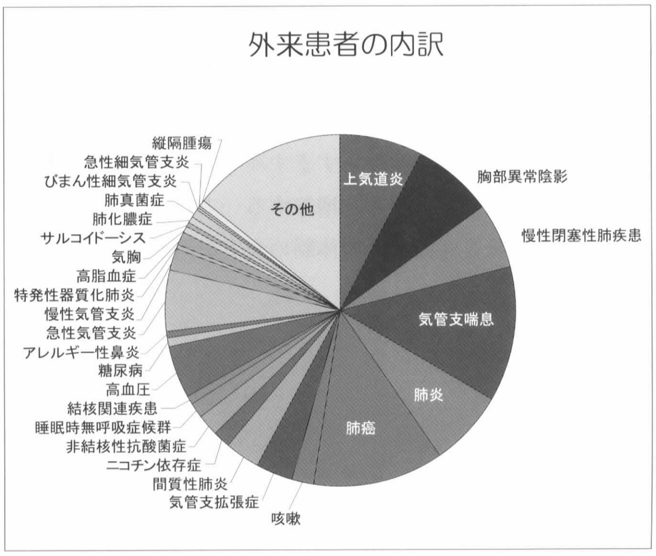
◆内　科（呼吸器科）

医　長　宮川比佐子

2011年４月より常勤医１名が赴任し、週１回の応援医師外来及び常勤医週２回の外来が開始となり、２年目を迎えた。外来患者数は年間1794名であり、前年度とほぼ同数であった。図に示すように、2010年度まで徐々に減少傾向にあった月別外来患者数が2011年度、2012年度と年間と通じて減少することなく、月々の外来患者数の増減の幅が減ってきているようである。

外来患者の内訳として前年度は上気道感染症が最も多かったが、今年度は肺癌60名（12％）が一番多い疾患となった。これは常勤医による診療開始に伴い、入院及び外来での抗がん化学療法が可能となったことによるものが大きいと考えられる。

新入院患者数は2011年度　145名であったが、2012年度は171名と増加している。内訳は肺炎を代表とする下気道感染症が60名と35％を占めた。肺癌は外来患者数の増加にも反映されているが、入院数も23名（14％）と増加していた。新入院患者の疾患内訳を図に示す。

気管支鏡検査（経気管支肺生検等を含む）を開始したが、2012年度の年間件数は19件であった。代表的な疾患としては肺癌９件であった。入院・外来を含め、赴任初年度１年間で肺結核を６名診断したが、2012年度は２名にとどまった。